

この子らと

令和7年5月号

命輝く子ども

こいのぼり会



わくわく鹿児島中央認定こども園



園長 川口公男

「園関係者評価委員会」を実施

◇ 期日 令和7年3月18日10:00～11:00【参加者 民生委員・西田小校長】

◇ 内容

保育参観及び施設参観後に、保護者のみなさまによる園の評価・意見、園長・職員の自己評価、ランドデザイン等により園経営について説明いたしました。



説明後にご質問や今後の園経営について具体的な方向性を示していただきました。

「県幼児教育センター」訪問

◇ 期日 令和7年4月17日10:00～11:30

◇ 内容 令和7年4月1日付で「県内の幼児教育の質の向上を図る」という目的で県保健福祉部子ども政策局子育て支援課内に設置されました。

本格的なスタートに当たって、現場の意見を聞きたいとの趣旨での県教委の指導主事、アドバイザーの先生方が訪問されました。



園経営の「スライドショー」などにより園の運営等を説明しました。子どもたちの活動の動画に感嘆されたり、職種を超えての職員の取組の様子に感銘を受けておられました。昨年度の県大会発表の研究誌を見てもらいましたが職員が子どもたちの姿に基づいて研修を進めていることに地に足がついた研修だと称賛してくださいました。併せて法人全体で全事業所職員の資質向上を図っていることに法人の今後の躍進を期待されていました。

評価と指導の一体化をめざして保護者のみなさんによる評価、職員による自己評価、子どもの姿等は、「本当にこれまでの園経営や保育者の指導が、子どもたちの成長につながる適切な園経営・保育者の指導であったか」を反省し、課題を明確にしてより良い園経営・保育者の指導をめざすわたしたちの「鏡」となります。



伊佐市湯之尾の滝



屋根の上のこいのぼり

「屋根より高いこいのぼり 大きいまごいはおとうさん、小さいひごいこどもたち、おもしろそうに泳いでいる」(童謡「こいのぼり」 作詞 近藤宮子)

こいのぼりの「鯉」は、「生命力の強い魚」であり、鯉のように、逆境や苦難を乗り越えて、強くたくましく生きていってほしいという願いがこめられています。

ところで!童謡「こいのぼり」の歌詞に「お母さんが出てこないのは「なぜ?」

「端午の節句」は、女の子の「ひな祭り」に対して男の子の祭りとされてきました。江戸時代の、こいのぼりは、黒色の真鯉(まごい)一匹、明治になってから黒色のまごいと赤色の緋鯉(ひごい)の二匹になりました。明治から大正時代までは、黒色の「まごい」はお父さん、赤色の「ひごい」は子どもたちでした。昭和になり、「家族」に関する考え方が変化するとともに、お父さんは「真鯉」、おかあさんは「緋鯉」子どもたちは「小鯉」と変化してきたようです。

作詞された近藤宮子さんの時代背景は、まだ、家族の中心は、おとうさんだったようです。

5月7日、子どもたちがこども園にくるのを楽しみに待っています。休みのリズムから園の生活リズムに慣れるように全職員で支援してまいります。